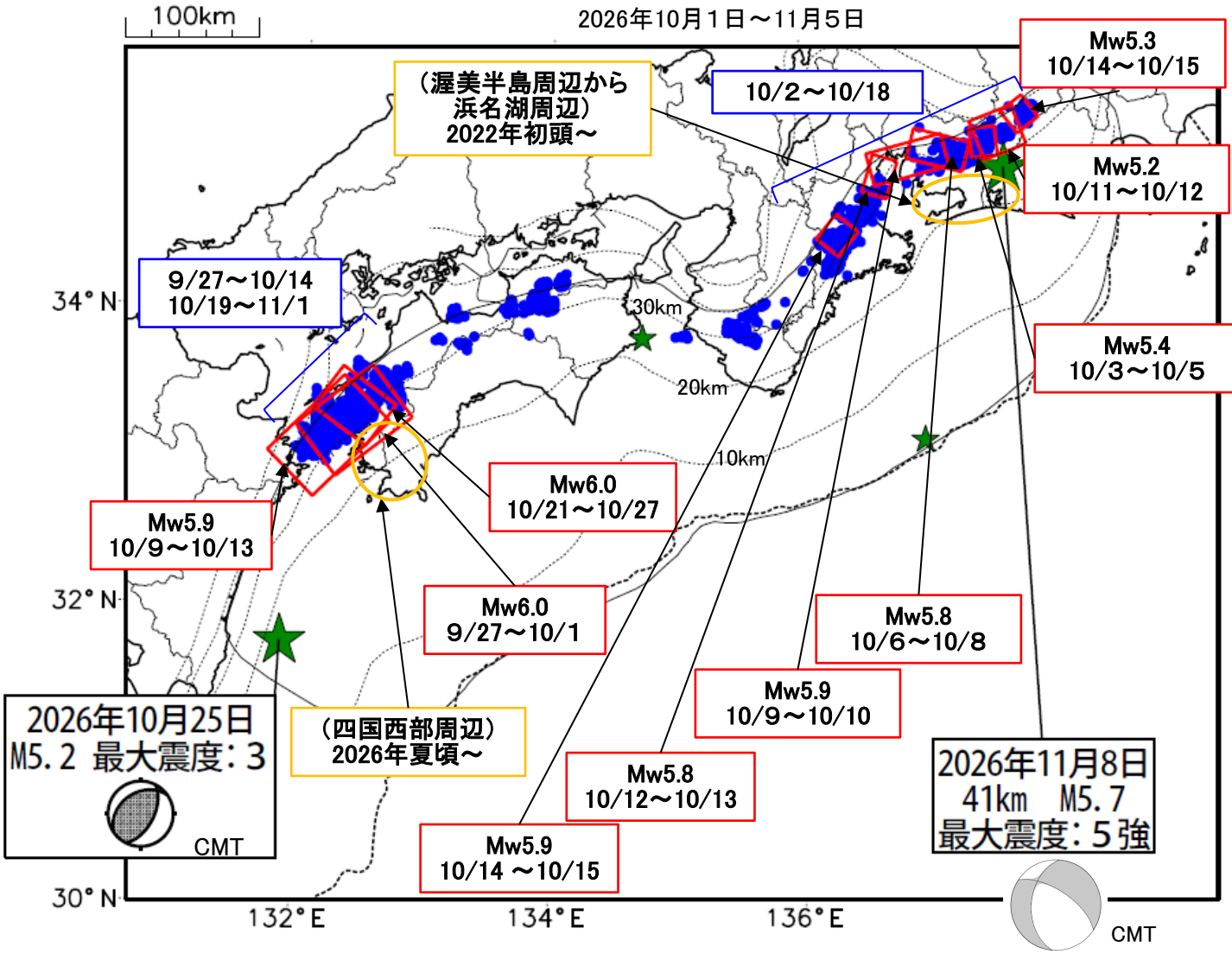
最近の南海トラフ周辺の地殻活動

2026年10月１日～11月５日



緑（★）
通常の地震（最大震度３以上もしくはM3.5以上の地震、大きさはMの大きさを示す）

青（●）
深部低周波地震（微動）

赤（□）
短期的ゆっくりすべり

黄（○）
長期的ゆっくりすべり

※地図中の点線は、Baba et al.(2002)、Hirose et al.(2008)、Nakajima and Hasegawa(2007)によるフィリピン海プレート上面の深さを示す。

※深部低周波地震（微動）及び短期的ゆっくりすべりは、９月26日以降のものを示す。

※通常の地震は、11月８日までのものを示す。

通常の地震（最大震度３以上もしくはM3.5以上）・・・・・・・・・気象庁の解析結果による。
深部低周波地震（微動）・・・・・・・・・（震源データ）気象庁の解析結果による。　（活動期間）気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・【四国西部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
　　【東海から紀伊半島北部】気象庁の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

令和８年 10 月１日～令和８年 11 月５日の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度３以上を観測した地震もしくは M3.5 以上の地震及びその他の主な地震】

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大震度	発生場所
10/13	20:44	徳島県南部	38	3.9	２	フィリピン海プレート内部
10/25	08:59	日向灘		5.2	３	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界
11/２	12:25	三重県南東沖		3.7	－	
11/８	01:04	愛知県東部注)	41	5.7	５強	フィリピン海プレート内部

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。
※発生場所は、フィリピン海プレートの中で発生した地震のうち、沈み込むプレートの内部で発生したものは「フィリピン海プレート内部」、それ以外は「フィリピン海プレート内」と表記している。
※太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く。
※主な地震は、11 月８日までのものを示す。
注）情報発表に用いた震央地名は「静岡県西部」である。

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
■四国東部 10 月１日～２日 10 月６日 10 月 10 日～14 日 10 月 17 日 10 月 21 日～22 日 10 月 31 日 11 月５日 ■四国中部 10 月３日 10 月９日～10 日 10 月 20 日 10 月 27 日 11 月５日 ■四国西部 ９月 27 日～10 月 12 日注1)・・・（１） 10 月 14 日～16 日 10 月 19 日～11 月１日注2)・・・（３） 11 月３日～（継続中）	■紀伊半島北部 10 月 13 日～18 日注3)・・・（２） ■紀伊半島中部 10 月２日 10 月 18 日～19 日 ■紀伊半島西部 ９月 30 日～10 月１日 10 月 12 日 10 月 15 日	10 月２日～17 日注3)・・・（２） 10 月 23 日 10 月 31 日～11 月１日

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数２日以上または活動日数１日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。
※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を赤字で示す。
※上の表中（１）、（２）、（３）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたもの。

注１） 防災科学技術研究所による解析では、10 月９日から 14 日頃にかけて微動活動が見られた。
注２） 防災科学技術研究所による解析では、10 月 21 日から 26 日頃にかけて微動活動が見られた。
注３） 防災科学技術研究所による解析では、10 月３日から 17 日頃にかけて微動活動が見られた。

気象庁作成